

UC203 (ユニロボ2R) のトラブル事例

現象	原因	対策
「ERROR ドライバー」になる (サーボONしない) 下記参照	1. ヒューズが切れている 2. 基板内CN3の断線 3. 基板内のトランジスタとアルミケースが短絡した 4. カップリングが締め付け部の所で割れている	1. ヒューズ交換(標準は6A) 2. CN3確認 3. 絶縁シートのゴミをとる 4. カップリング交換
ヒューズが何回も切れる 「ERROR ドライバー」になる	(ユニロボをぶつけた為) 基板内トランジスタが破損した	基板交換
電源を切るとプログラムが変わる、消える	1. バックアップ電池切れ 2. 基板トランジスタの故障	1. 電池交換 2. 基板を対策品に交換
サーボONで突然動く	1. CN-SIGの接触不良 2. コネクタ部の汚れ 3. 基板内3端子IC故障 4. モータの故障	1. コネクタを差し直す 2. コネクタ部の清掃 3. 基板交換 4. モータ交換
「エラーツウシン」になる	1. 電源投入時から非常停止 2. ペンダントケーブル断線 3. RAMデータが壊れた	1. 非常停止を解除する 2. 配線チェックをする 3. メモリクリアする、基板交換
ペンダントが表示しない	1. 直流電源が供給されていない、断線している 2. コネクタのピンがつぶれている	1. 電源ランプ、ケーブル等をチェックする 2. ピンを直す
振動する	エンコーダケーブルの断線	CN-SIGケーブルの確認
原点復帰でリミット異常	原点リミットがドックにONするまで当たっていない(先にオーバーランする)	リミットの高さを調整する リミットスイッチ交換
原点が15mmぐらいずれる	原点LSの当たる位置と、エンコーダのZ相が同じなので、1回転分ずれている	カップリングの所で、モータを半回転ずらすか、原点LSの位置を変える
ユニロボの出力が電源投入でONしてしまう	基板内の出力トランジスタが壊れた	基板交換
溶接すると「ERRORドライバー」になる	振動による過電流	ベースを固定する
自動運転中に決まった位置で非常停止になる	治具との干渉	治具がユニロボと当たらないようにする
基板からこげたにおいがする	機体配線側でDC24Vが短絡したため、基板内のダイオードが壊れた	基板交換、DC24Vにはヒューズをつける

【ERROR ドライバーになるとき】

ヒューズを交換してください。
ヒューズの位置は右図参照。

使用ヒューズ： 5.2 20mm
FGMB (富士端子工業) 定格電流 6A

【原点合わせを行わずにパラメータ設定を行う方法】

1. 運転準備を入れます。
2. ティーチペンダントの「START」キーは押さずに、「STOP」を押します。
3. モードを「パラメータ設定」にして、パラメータを設定します。

